

地域をフィールドとし、地域と連携した斜里高校のE S D活動

北海道斜里高等学校 校長 中谷 晋二
担当者 高橋 賢司

1 本校のE S Dの特長

学校のある斜里町は「世界自然遺産・知床」を擁する、日本有数の豊かな自然環境に恵まれた土地であるにもかかわらず、あまりにも身近にありすぎるために本校の生徒はほとんどが、それらの希少性・重要性への気付きや、持続発展させていく責任の認識が不十分であり、また地域の魅力等を誇りを持って発信する気概や表現する能力に乏しい。本校では、これまで実践してきた「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとしたE S D活動を見直し、取組の改善・充実・発展を図るとともに、E S Dの理念を全教科・科目、特別活動、課外活動等へと波及させ、学校の教育活動全体を通して、生徒に関わる課題の解決に向けた実践を行っている。

II 実践の内容

1 「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとしたE S D活動

- (1) 史跡発掘体験学習
- (2) 知床自然体験学習
- (3) 知床自然概論
- (4) 知床・産業系列における取組



(史跡発掘体験学習) (知床自然体験学習) (知床自然概論)

2 学校の教育活動全体への波及

- (1) キャリア教育
- (2) 評価と検証

III 実践の概要

1 「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとしたE S D活動

(1) 史跡発掘体験学習

1年次生全員対象に、郷土の歴史や豊かな自然に触れさせ、次世代の担い手としての歴史観や郷土観を養う。博物館職員による事前講義を受け、当日は発掘調査現場（チャシコツ岬上遺跡）において、オホーツク文化期の遺構や出土した土器・石器等を実際に見学する。

(2) 知床自然体験学習

1年次生全員対象に、環境保全の意識を高め、畏敬の対象として自然を実感し、野外でのルールを遵守する態度を育成する。事前知識等の講義を実施し、当日は知床横断道路付近のポンホロ沼周辺の散策や、サケ・マス孵化場でのサケの遡上観察と、植樹体験を行う。

(3) 知床自然概論

平成17年度より開講した3年次自由選択科目（学校設定科目2単位）で、世界自然遺産知床の生物、地質、生態系などの学習活動を重ね、1月末に実施される「学習成果発表会」にて研究した成果を発表する。外部講師による授業は、知床博物館、斜里町役場、東京農大、知床海鳥研究会、シマフクロウ研究所、知床ネイチャーオフィス、知床財団などから年間36時間程度。

(4) 知床・産業系列における取組

平成 26 年度入学生から導入された系列で、地域の自然や産業、歴史文化等を教材とした体験的な学習を通して、思いやりやホスピタリティ（おもてなし）の心を育み、地域の持続発展に貢献できる創造的で実践的な能力を育成することをねらいとしている。

【設置選択科目】：観光一般、観光ビジネス基礎、観光ビジネス応用、観光情報、観光英語、課題研究、生活と福祉、子どもの発達と保育、フードデザイン、生涯スポーツ、知床自然概論
ア 札幌国際大学、斜里町と連携した観光教育

「観光教育等の充実に関する高大・地域連携協定」を札幌国際大学・斜里町・本校の三者間で平成 26 年に締結した。このような三者間連携は道内初の試み。連携プロジェクトとして「デジタル観光パンフレットの作成」に取り組み、夏季休業中に大学教員と学生の指導の下巡検を実施し素材集めを行った。最終的には英語による説明文と音声を付け加え、Web 上での公開を目指している。普段は iPadmini や Macmini(大学より貸与)を使った授業の他、放課後に facetime や quia を利用した e ラーニングによる語学学習も行っている。



(知床巡検)



(facetime 利用風景)

イ 地域と連携した商品開発

3 年次選択科目における「課題研究」では、J A 斜里町や町内の商店と協力して独自の商品開発に取り組んでいる。これまでに、開発した商品がセイコーマート（道内コンビニエンスストア）で期間限定販売された他、一昨年に開発したラーメンは、昨年 12 月から J A 斜里町より生ラーメン「こはる潮味」という商品名で販売されている。現在は斜里町商工会の協力によって町内事業者との連携が一層強まり、町内和洋菓子店とのオリジナルスイーツ企画は毎年 12 月の特産品イベントの恒例として、広く町民に親しまれている。



(知つとこ特産品フェア)



(カタリ場)

2 学校の教育活動全体への波及

(1) キャリア教育

ア カタリ場

NPO 法人『いきたす』による、動機付けキャリア学習プログラム。中高生の進路や悩みについて、大学生が対話型のワークショップを実施しながら、人生のきっかけを作り出す取組。1 年次生を対象に今年度導入。

イ 異年次混合ゼミ

科目横断的・探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び考え、主体的に判断し、課題を解決する資質や能力を身につけるのが目的。年度末に教員向けのアンケートを行い開講ゼミを決定し、年間 16 時間程度で実施。1 年間の学習の様子を学習成果発表会で発表。

(2) 評価と検証

各取組における生徒の変容を把握する評価手段として、昨年度より「1 枚ポートフォリオ(OPP)を導入した。生徒の実態把握のために非常に効果的

平成 28 年度開講ゼミ

ゼミ名	内容
1 歴史文化ゼミ	鶴屋の歴史やアイヌ文化をテーマに郷土理解を深める
2 保育ゼミ	オリジナル絵本制作と保育園訪問による読み聞かせ
3 合唱ゼミ	基本的な発声や和声について学びながら合唱に親しむ
4 創作ゼミ	小説執筆(相互評価と推敲)。コンテスト応募を視野に
5 メディアゼミ	学校紹介CMや公共マナーCMの作成など
6 英語劇ゼミ	英語を使った演劇の創作と表現
7 「証券」ゼミ	金融に関する講義、株式学習ゲームによるシミュレーション
8 受験対策ゼミ	センター試験・公務員試験等に特化した対策。勉強法研究

知床自然体験学習 1 枚ポートフォリオ		年 組	氏名
体験前の考え	体験中の考え		体験後の考え
	(事前学習)		
体験前後の比較 (自己評価)			

あることから、今年度はより多くの機会を活用し、評価・分析と次年度実践への反映のために役立てている。

IV 実践の成果と課題

前述の OPP において、自分たちの住む自然環境について「今まで知らなかった。もっとよく知りたい」「大切にしていきたい」「守っていきたい」「地元のことをもっと語っていきたい」「誇りを感じる」（知床自然体験、史跡発掘体験）等の記述が多数有り、持続発展(SD)に向かう意識の醸成に資する教育活動が展開されたことが確認できた。また、学習成果発表会や校内外の様々な研究会・イベント等での発表体験を通じて、外に向けて発信する気概や表現能力は確実に育ってきており、今後は、実践に係る連携先との連携を一層強化することで各取組の質の向上を図るとともに、全教職員の協働により、本校の教育活動全体への更なる ESD の普及と深化を通じて、生徒に関する課題解決に向けた実践に取り組んでいきたい。